

第2節 商業

現状と課題

商業については、近年、大型店舗の郊外進出により中心市街地の空洞化、商店街の衰退の進行などが全国的に大きな課題となっています。

本町においても田原本・西田原本駅前商店街における空洞化現象が進む中、地域活性化対策の一環として、空き店舗を活用し、平成16年に住民参加型のギャラリーを併設した観光ステーション「磯城の里」を開設しました。今後、駅前周辺整備に伴い、中心市街地の在り方等も見直していく必要があります。

また、国道24号沿道の大型商業施設や沿線道路店舗は減少傾向にあり、遠来からの集客は困難な状況です。

今後、住民生活の利便性向上を図り、まちの活力を維持・向上させるためには、本町の歴史と文化を活かした個性的で魅力的な商業地区の整備は重要であり、中心市街地の商業機能回復に向け、商工会はもちろん、関係団体やまちに住み働く人々との連携を図っていかねばなりません。

商業

市街地の活性化

沿線道路店舗の整備

積極的な施策の展開

● 商業の現況 (小売・卸売)

	商店数(店)	従業員数(人)	年間販売額等 (万円)
平成 3年	460	2,522	7,141,740
平成 6年	489	2,759	10,485,891
平成 9年	451	2,901	10,219,384
平成14年	428	2,905	8,428,234
平成16年	416	2,871	7,629,730

資料:商業統計調査

施 策

1. 市街地の活性化

① 空き店舗対策の推進

商店街を中心市街地として再活性化させるため、「磯城の里」に次ぐ空き店舗を有効活用し、本町の特産品、土産物を1か所にまとめ、販売できるアンテナショップ等の設置を促進します。

② 商店の個性化の推進

本町の歴史的なまち並みを活かし、個性的な商店街を形成するため、商工会などと協力をして環境の整備に取り組みます。

③ 消費者ニーズへの対応

ライフスタイルの変化、交通体系の変化に対応した、新たな販売手法の採用や、情報化への取り組みなど商工会などと協力し、活性化に向けた自主的な努力を支援します。

2. 沿線道路店舗の整備

① 国道24号・主要地方道路沿道店舗の整備

京奈和自動車道（国道24号バイパス）が整備された後、国道24号及び主要地方道路の交通量に大きな影響が考えられることから、沿道の商業機能を集積できる取り組みを図ります。

② 駅前整備に伴う環境整備

駅周辺整備による商業拠点の整備を進めるに伴い、利用者の利便性を図るため、駐車場の確保を図ります。

3. 積極的な施策の展開

① 企業との連携

町内企業と商工会が連携を図り、積極的な企業の育成を推進します。

② 情報の発信

インターネットを活用し、商店街の店舗や「磯城の里」の情報を全国に配信し、本町の魅力をPRします。